

平成27年度全国高専フォーラム参加報告

鈴木徹

1. はじめに

これまで高専にはフォーラムと名付けられた全国イベントが3つあった。

- (1) 全国高専教育フォーラム
- (2) テクノフォーラム
- (3) 高専女子フォーラム

経緯は知らされていないが、平成27年度は上記(1)と(2)が仙台市の東北大学川内キャンパスで「全国高専フォーラム」として統合開催された。聞くとところによると、当初、上記3フォーラムを統合した「全国高専フォーラム」として開催すべく計画されたが、(3)だけ日程的に折り合わずこのようになったらしい。来年度は3フォーラムを統合する方向で計画されるかも知れない。

これまでの全国高専フォーラムには平成24年度東京大会のみ発表参加したことがあり、東京の青少年総合センターに全国から大勢駆けつけた参加者による、熱気に溢れた研究発表会、ワークショップ(以下WS)、講演会に、高専パワーの凄まじさを肌身に感じたものである。全国51校の高専パワーここにあり、と、大いに頼もしく感じ、パワーをいただいて帰ったのであった。

今年度開催から大会は大いに様変わりした。従来から存在した研究発表はなくなり、高専機構のマネジメントによって全国から募ったテーマについてセッションするオーガナイズド・セッション(以下OS)とWS、そして、昨年度単独で開催した3Dプリンタによる造形コンテスト「デザイン・コンテスト」で構成されるようになったためである。我々技術職員には事前にこの経緯について情報がもたらされなかったのが当方自身OSとWSの違いが分からないが、WSはその言葉からしてハンズオン色の強いセッションなのかも知れない、と思い

つつ参加した。もっとも、予算的に厳しかったこともあり、3日間日程の最終日のみの参加となった。

2. 開催日程と場所

平成27年8月26日(水)～28日(金)
東北大学川内キャンパス

3. 参加報告

東北大学教養部の丸ごと1棟借り上げでの会場設営で、1階から4階まで3～5室の教室にてOSとWSを同時開催していた。

当方が参加した目的は明白で、今年度から導入された高専Blackboard(以下高専Bb)に関するWSに参加したかったからである。教室は6～7割方の参加者で埋まり、これまで高専Bbについて先進的に取り組んでおられる函館高専、仙台高専などの教員グループが高専Bbの現状と今後、授業に取り入れるための「授業設計シートの作成」ハンズオンセミナーが実施された。高専Bbの現状と今後の説明については仙台高専の北嶋先生のご説明であり、既にメールや高専Bb上でリリースされている情報についての口頭説明であったため、特段目新しい情報はなかったように思う。「授業設計シートの作成」は、BbのようなLMSを従来の授業に取り入れようとする際、闇雲にアプローチするのではなく、自分の授業スタイルにどのようにマッチさせていくべきかを考える方法論として、1つのテクニックを示したもので興味深いのが、この策にはいささかこなれていない感“が”つきまっていた。方法論としては「あり」だが、正直、面白くはなかった。時間の大半がシート作成に費やされてしまったが、例えばBbを自らの授業のどの場面に適用できるか考える項目に、わざわざ「ガニエの9授業事象」と

言う大半の参加者が聞いたこともない専門的事象論を持ち出すあたりはこり過ぎであろう。

当方としては、実際に高専 Bb を使っておられる先進高専さんに、実際に使ってみたら

- ・こういうところが良かった
- ・こういうところがダメだった
- ・こういう苦労があった
- ・こうやって問題を乗り越えた

と言うことが聞きたかったのだが、それらは皆無。参加してみて、徒労感が強かったことは否めない。

午後の Office365 の OS は Bb と同じ教室がほぼ一杯の参加者で埋め尽くされた。立ち見がでたほどだ。高専 Bb に比べ、認知度、利用度、関心の面で圧倒的であることは議論の余地がない。O365 に関する各校の活用事例などが聞けたが、Azure もテーマに含まれていたため、全体の講演が、O365 と Azure 両方あり、1 時間半のセッションではどっちつかずで、結局何がやりたいのか分からないものになっていた印象で、こちらも収穫があったとは思えない。ご同行いただいた T 先生も言うておられたが、事例紹介は良いが続く発表でツールの機能説明をされても....

繰り返しになるが、参加者が本当に聞きたかったのは、こういうツールを学校に導入する際、どういう苦労があり、それらをどう解決したか、とか、どういうメリット、デメリットがあったか、と言ったことではなからうか。機能についてはネットでもマニュアルでも分かることであろう。

ポツリ、ポツリと貴重な情報提供はあるにはあったが、折角 4 時間あったセッションなのだから、もう少しテーマの絞り込みと発表内容の吟味をして欲しかった。

3. まとめ

高専機構の公式サイトにフォーラムについて以下のような記載がある。

国立高専機構では、「全国高専フォーラム」を開催し、国公立高等専門学校・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の教職員が一堂に会し、教育研究の質の向上、教育方法の開発推進のための研究・事例の成果発表や意見交換を行うことにより、教職員の資質や高等専門学校の教育ポテンシャルの向上を目指しています。

当方はフォーラム好き派である。高専パワーを感じられる良い大会だと思っている。ただ、3 日間全日程に参加していればまた違ったかも知れないが、研究と事例の成果発表らしきものはなかったし、意見交換は他の会場ではあったのかも知れないが、今回は参加し得なかった。高専 Bb や O365, Azure に関するセッションに参加してつくづく感じたのは、このセッションを企画主導されておられる若い方達が思い違いしなければいいな、ということであった。何のこことかと言うと、セッションを通じて、こういう便利な IT ツールを用いて授業の IT 化を今以上に推し進めましょう。そうすれば、こんなことができます、こんなに便利ですよ、と言ったことが言われていた気がする。当方は Bb も O365 も Azure も優れたツールと思っているのでそれは否定しないが、授業の何でもかんでも IT 化すれば良い、と言うのとは違うと思っている。別に IT 化しなくとも、今まで通りの方が良いことだってあるし、労力が多くともそちらの方がやり易いし得るところは違わないかも知れない。我々が忘れてはならない最も大事なことは、

- ・高専の授業における基本は対面授業であり、IT ツールは対面授業の代わりにはなり得ない。IT ツールは対面授業でカバーできない部分を補完するツールに過ぎない。

と言うことだと思っている。

この理念を忘れた IT 化は良い結果を生まないであろう。

僅か1日しか参加していない身で全体論はおこがましいが、当方が参加した限り収穫がない印象で、平成24年度の大会時に感じた充実感はどこかに行ってしまった。以前方が良かった、と思ってしまった。今年のような大会であれば恐らく来年度以降は参加を考えるであろう。